

ことばの綾「あきらめる」

涼香さん(仮名)は4人目を身ごもりました。夫は小さな町工場で働いていて、収入は乏しく、実家は母子家庭でしたし、ギリギリ頑張っていた母親も病気になり、いよいよ実家の方は生活保護を申請しなければ、というところまで来てしまいました。身ごもったとわかった時、お母さんからは4人目はあきらめるよう言われました。苦労はこれから今まで以上になることは明らかですし、生活費のことを考えると不安でいっぱいでした。しかしあきらめることは考えられないことでした。何を言われても「ちゃんと育てるから」と説得して頑張ってもらえました。しかし健診費もままならず、おくれがちになり、今日の健診もどうしようかと迷っておられましたが、出産予定日も近くやっとの思いで病院に来られたのでした。そこでポスターに出会い連絡してこられました。「お陰様で安心して出産にのぞむことができ、無事にかわいい女の子がうまれました。これからもがんばります」とお便りがきました。お姉ちゃん、お兄ちゃんたちも喜んでくれて、お母さんの頑張る力になっています。本当に良かった。4番目だから「あきらめる」とはどういうことでしょうか。「墮胎」することは「殺す」ことです。しかし殺すと言わず「中絶」といい、それも言えず「あきらめる」と言います。マザーテレサははっきり言っています。「親が自分の子を殺す、そんなことが行われているところに真の平和はない」と。ことばの綾に惑わされず、かけがえない命を守る勇気を持ちたいものです。

